

神原勝成

ツネイシホールディングス 代表取締役社長

UMISHIMA

テーマ:
VALUE・価値の共振

海島

瀬戸内デザイン会議
SETOUCHI
DESIGN
CONFERENCE

山極壽一

霊長類学者
総合地球環境学研究所所長

渡邊 敦

笹川平和財団
海洋政策研究所 海洋政策実現部長

御立尚資

ボストン・コンサルティング・グループ 元日本代表
京都大学 経営管理大学院 客員教授
熟と爛 代表取締役会長

金井政明

良品計画 顧問

原 研哉

デザイナー
日本デザインセンター 代表

福武英明

ベネッセホールディングス 取締役会長
福武財団 理事長

桑村祐子

高台寺和久傳 女将

小林史明

衆議院議員 環境副大臣

島

伊藤東凌

臨濟宗建仁寺派兩足院 副住職
InTrip 代表取締役僧侶

高野 真

Forbes JAPAN Founder

谷本有香

Forbes JAPAN Web 編集長

日程

2025年8月24日 | 日 |

場所

能楽堂ホール tenjin9 (RSK 山陽放送本社1階)
〒700-0814 岡山県岡山市北区天神町 9-24

参加費

20,000円 (学生10,000円) / 先着100席

共催

KOIA / Forbes JAPAN / 瀬戸内デザイン会議

応募方法

URLまたは二次元バーコードからお申込みください

<https://setouchidc2025.peatix.com/>



松田敏之

両備ホールディングス 代表取締役CSO

石川康晴

イシカワホールディングス 代表取締役社長
石川文化振興財団 理事長

藤本壮介

建築家
藤本壮介建築設計事務所 代表

島

梅原 真

デザイナー
梅原デザイン事務所 代表
武蔵野美術大学 客員教授

小島レイリ

Tokyo Gendai ゼネラル・マネージャー

細尾真孝

細尾 代表取締役社長

橋本麻里

学芸プロデューサー

伊藤穰一

千葉工業大学 学長
デジタルガレージ 共同創業者 取締役
Neurodiversity School in Tokyo 共同創立者

山本奈未

山本山 代表取締役社長 十一代当主

伊藤正裕

パワーエックス 取締役兼代表執行役社長 CEO

海

2025 岡山公開カンファレンス スケジュール

8月24日

9:45 集合／開場

10:00 開会宣言：石川康晴

10:02 共催者代表挨拶：中島基善 (KOIA 代表理事会長)

10:05-10:25 イントロダクション

価値の行方

原 研哉

10:25-10:30 来賓祝辞：伊原木隆太 (岡山県知事)

10:30-11:45 セッション 1

つなぐ海・つながる文化

大原あかね × 神原勝成 × 福武英明 × 石川康晴 モデレーター：御立尚資

11:45-12:30 セッション 2

人類は何を間違えてきたのか

語り手：山極壽一 聞き手：橋本麻里

12:30-13:30 休憩

13:30-13:40 ご案内

瀬戸内カルチャーリージョン

①ひろしま国際建築祭：白井良邦 ②Majo：青井 茂

13:40-14:40 セッション 3

イノベーション／未来を変える価値

語り手：伊藤正裕 × 伊藤穰一 聞き手：高野 真

14:40-15:40 セッション 4

オーセンティシティ／未来においても変わらない価値

金井政明 × 梅原 真 モデレーター：原 研哉

15:40-15:55 休憩

15:55-17:10 セッション 5

カルチャーアントレプレナー

細尾真孝 × 山本奈未 × 桑村祐子 × 伊藤東凌 モデレーター：谷本有香

17:10-17:25 休憩

17:25-18:40 セッション 6

プロジェクト海島

小林史明 × 渡邊 敦 × 神原勝成 × 藤本壮介 × 松田敏之 × 原 研哉

モデレーター：小島レイリ

18:40-18:50 閉会宣言／挨拶：高野 真

19:00-20:30 懇親会

会場：Merci life organics 岡山天神店 2階

住所：〒700-0814 岡山県岡山市北区天神町5番21号

一般参加費 5,000円 (税込)

【瀬戸内デザイン会議メンバー】

青井 茂

アトム 代表取締役社長

青木 優

MATCHA 代表取締役社長

伊藤東凌

臨濟宗建仁寺派両足院 副住職／

InTrip 代表取締役僧侶

梅原 真

デザイナー／梅原デザイン事務所 代表／

武蔵野美術大学客員教授

大原あかね

大原芸術財団 代表理事／三楽 取締役副会長

大本公康

Big Book Entertainment 代表取締役

岡 雄大

Staple 代表取締役／Azumi Japan 取締役

加計 悟

倉敷芸術科学大学 副学長

神原秀明

せとうちクルーズ 取締役会長

黒川周子

esa 代表取締役社長

桑村祐子

高台寺和久傳 女将

小島レイリ

Tokyo Gendai ゼネラル・マネージャー

白井良邦

編集者／慶應義塾大学 SFC 特別招聘教授／

ひろしま国際建築祭 総合ディレクター

神 義一

グローブス 代表取締役社長

須田英太郎

チームみらい 選挙対策委員長

scheme verge Co-Founder

角南 篤

笹川平和財団 理事長

高橋俊宏

ディスカバー・ジャパン 代表取締役社長／

Discover Japan 統括編集長

長坂 常

建築家／スキーマ建築計画 代表

永堀敬太

SKYTREK 代表取締役社長

西山浩平

CUUSOO SYSTEM 代表取締役社長

橋本麻里

学芸プロデューサー

福武英明

ベネッセホールディングス 取締役会長／

福武財団 理事長

藤本壮介

建築家／藤本壮介建築設計事務所 代表

松田哲也

ヒロマツホールディングス 代表取締役会長兼 CEO

松田敏之

両備ホールディングス 代表取締役 CSO

御立尚資

ボストン・コンサルティング・グループ 元日本代表／

京都大学 経営管理大学院 客員教授／

熟と爛 代表取締役会長

瀬戸内デザイン会議とは

瀬戸内デザイン会議は、20～30年後の日本経済において、何が日本の未来資源になるのか、様々な領域で未来を見据えている識者たちの頭脳を持ち寄り、それぞれのビジョンを交感させることを意図した会議体です。ローカルを考えることはグローバルを考えることでもあり、地球を考えることでもあります。日本全体、あるいは世界に広がっていく未来産業のあり方について多様な視点から議論し、構想を広げ、実現していきます。

【世話人】

石川康晴

インカワホールディングス 代表取締役社長／

石川文化振興財団 理事長

神原勝成

ツネインホールディングス 代表取締役社長

原 研哉

デザイナー／日本デザインセンター代表

瀬戸内デザイン会議メンバー

伊藤 穰一 Joichi Ito

千葉工業大学 学長
デジタルガレージ 共同創業者 取締役
Neurodiversity School in Tokyo 共同創立者



デジタルアーキテクト、ベンチャーキャピタリスト、起業家、作家、学者。教育、民主主義とガバナンス、学問と科学のシステムの再設計などさまざまな課題解決に向けて活動中。米マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ所長、ソニー、ニューヨークタイムズ取締役などを歴任。株式会社デジタルガレージ取締役。内閣府グローバル・スタートアップ・キャンパス構想ステアリング・コミッティ委員。2023年7月より千葉工業大学学長。Neurodiversity School in Tokyo 共同創立者。

瀬戸内デザイン会議メンバー

伊藤 東凌 Toriyu Ito

臨済宗建仁寺派両足院 副住職
InTrip 代表取締役僧侶



1980年生まれ。建仁寺僧堂にて3年間の修行後、両足院に入寺。2008年副住職に就任後、ヨガ、アート、伝統文化を組み合わせ新しい仏教の表現を提案し続けている。2020年7月には瞑想アプリ「InTrip」を立ち上げ、同名の株式会社の代表取締役僧侶に就任する。2020年よりサンフランシスコ化粧品会社と香港ウェルネステック会社の「Well being Mentor」を務める。国内企業のエグゼクティブコーチングも複数担当する。ホテルの空間デザイン、アパレルブランド、モビリティなどの監修実績多数。最新の著書に『忘我思考 一生ものの「問う技術」』（日経BP、2023年）がある。

伊藤 正裕 Masahiro Ito

パワーエックス 取締役兼代表執行役社長 CEO



1983年兵庫県生まれ。高校在学中の2000年に株式会社ヤッパを創業。2014年M&Aにより株式会社ZOZOに入り、ZOZOテクノロジーズの代表取締役CEOを経て、2019年株式会社ZOZOの取締役兼COOに就任。「ZOSOSUIT」、「ZOZOMAT」、「ZOZOGLASS」など数多くの新規プロダクトの開発を担当し、ZOZOグループのイノベーションとテクノロジーを牽引する。2021年3月に株式会社パワーエックスを設立し、産業用大型蓄電池や電気運搬船等、エネルギー供給の新未来を提案する。

瀬戸内デザイン会議メンバー

梅原 真 Makoto Umebara

デザイナー
梅原デザイン事務所 代表
武蔵野美術大学客員教授



高知市生まれ。高知県在住。「土地の力を引き出すデザイン」をテーマにデザインする。柚子しかない村の「ぼん酔しょうゆ・ゆずの村」。かつおを藁で焼く「一本釣り・藁焼きたたき」。荒れ果てた栗の山から「しまんと地栗」。4kmの砂浜を巨大ミュージアムに見立てる「砂浜美術館」。秋田県のビジョン「あきたびじょん」。島根県・海士町のアイデンティティ「ないものはない」のプロデュースなど。2025年、津波34メートル、黒潮町公認「防災缶詰・にげる」。四万十川の風景を教材とする「あたらしい学び方・しまんと分校」プロジェクト進行中。2016年、毎日デザイン賞・特別賞。武蔵野美術大学客員教授。

瀬戸内デザイン会議メンバー

大原 あかね Akane Ohara

大原芸術財団 代表理事
三楽 取締役副会長



1967年9月生まれ。一橋大学経済学部卒業。青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修了。2000年大原美術館理事、2011年同専務理事として館の運営に携わる。2016年7月、5代目の理事長に就任。現在、財団代表として法人の経営にあたる傍ら、社会福祉法人若竹の園理事長、公益財団法人有隣会理事、公益財団法人倉敷民藝館理事、公益財団法人倉敷考古館代表理事、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構評議員、などを兼務。倉敷市在住。

金井 政明 Masaaki Kanai

良品計画 顧問



1957年生まれ。西友ストアー長野（現合同会社西友）を経て1993年良品計画入社。生活雑貨部長として長い間、売上の柱となる生活雑貨を牽引し良品計画の成長を支える。その後、常務取締役営業本部長として良品計画の構造改革に取り組む。2008年2月代表取締役社長、2015年5月代表取締役会長に就任、現在に至る。西友時代より「無印良品」に関わり、一貫して営業、商品分野を歩み、良品計画グループ全体の企業価値向上に取り組む。

瀬戸内デザイン会議メンバー

桑村 祐子 Yuko Kuwamura

高台寺和久傳 女将



京都府、丹後半島の生まれ。ノートルダム女子大卒業後、大徳寺の塔頭で2年間住み込み修業。1990年より家業の料亭「高台寺和久傳」女将修行を始める。2007年に「高台寺和久傳」の代表取締役に就任。明治3年創業の料理旅館がルーツの老舗ながら、革新的なおもてなしで料亭文化の新しい時代を切り開く「和久傳」を率いる。郷里の丹後をこよなく愛し、植樹による森の再生活動から成る「和久傳の森」、食品会社やレストランを運営する紫野和久傳の取締役を務める。

瀬戸内デザイン会議メンバー

小島 レイリ Reiri Kojima

Tokyo Gendai ゼネラル・マネージャー



東京藝術大学博士課程修了(学術博士)。広報文化外交、営利・非営利の両分野、そして学術バックグラウンドをあわせ持つアート&カルチャーのプロフェッショナルとして、国内外の第一線で活躍。アジア唯一のGoogle Arts & Culture Braintrust 創立メンバー、米国カーネギーホール・ノータブルズジャパン創立運営委員などを歴任。外務省「JAPAN HOUSE」事業では創設期から参画し、官民双方で数多くの事業立ち上げを手がける。現在はインディペンデント・コンサルタントとして国内外の文化事業に従事する傍ら、国際アートフェア Tokyo Gendai のゼネラルマネージャーを務める。

小林 史明 Fumiaki Kobayashi

衆議院議員 環境副大臣



「テクノロジーの社会実装で、多様でフェアな社会を実現する」を政治信条に規制改革に注力。行財政改革、労働市場改革、デジタル規制改革、放送・通信改革等に取り組む。岸田政権では党の新しい資本主義実行本部で議論される経済構造改革、スタートアップ政策、社会保障制度改革を中心に、競争政策、党改革も推進している。第1-2次岸田内閣でデジタル副大臣兼内閣府副大臣を務め、デジタル臨時行政調査会を創設。事務局長として、見直すべきアナログ規制の調査を行い、一括改正に向けた計画を提言した。菅内閣では内閣府大臣補佐官としてワクチン接種促進事業を担当し、VRSの開発運用を牽引。現在、環境副大臣として、カーボン・ニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーの同時実現に向けた国内外の政策形成に尽力している。

高野 真 Makoto Takano

Forbes JAPAN Founder



早稲田大学大学院理工学研究科卒業後、1987年4月大和証券入社。1991年より米国へ出向、ノーベル経済学賞を受賞したハリー・マーコビッツ氏とともに資産運用モデルの開発に従事する。1992年に帰国後、大和証券、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント、ビムコジャパンリミテッドなどの金融機関において、投資・資産運用の分野で活躍。現在は、リンクタイズ株式会社取締役会長兼Forbes JAPAN Founderとして、日本のスタートアップやイノベーターを世界に紹介するメディア展開を推進しながら、投資家としても活動する。

瀬戸内デザイン会議メンバー

藤本壮介 Sou Fujimoto

建築家
藤本壮介建築設計事務所 代表



1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。主な作品にプタベストの「House of Music」（2021年）、「マルホンまきあーとテラス石巻市複合文化施設」（2021年）、「白井屋ホテル」（2020年）、「L'Arbre Blanc」（2019年）、「サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013」（2013年）、House NA（2011年）、「武蔵野美術大学 美術館・図書館」（2010年）、「House N」（2008年）等がある。

瀬戸内デザイン会議メンバー

松田敏之 Toshiyuki Matsuda

両備ホールディングス 代表取締役 CSO



1978年岡山県岡山市生まれ。2003年中央大学経済学部卒業、住友信託銀行（のちの三井住友信託銀行）入社。2008年両備システムズ入社、2019年両備ホールディングス代表取締役社長就任、両備システムズ代表取締役社長を含む23社の代表取締役を務める。社長就任にあたり社員へ送ったメッセージは、仲間と共に「想像もつかない世界へ」。以後、M&A、新事業立ち上げ、既存事業の改革、不動産事業の強化、ミャンマーやベトナムで物流チェーン網を事業化するなど海外へも進出。経常利益100億を超える企業グループに育て上げた。瀬戸内・岡山の発展を常に考え、2022年には岡山駅近くに大型複合施設をグランドオープン、「住む人、働く人、訪れる人、みんなが幸せになる街づくり」を目指す。

谷本有香 Yuka Tanimoto

Forbes JAPAN Web 編集長



東京都生まれ。大妻女子大学卒業。証券会社、Bloomberg TVで金融経済アンカーを務めた後、サンダーバード国際経営大学院を修了しMBAを取得。日経CNBCでキャスターおよび同社初女性コメンテーターとして従事。金融業界での実務経験と豊富なインタビュー実績を活かし、経済ジャーナリズムの分野で多方面にわたる活動を展開。著書に「アクティブリスニング なぜかうまくいく人の「聞く」技術」（ダイヤモンド社）、「世界トップリーダー1000人が実践する時間術」（KADOKAWA/中経出版）、「世界のトップリーダーに学ぶ一流の『偏愛』力」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）などがある。

細尾真孝 Masataka Hosoo

細尾 代表取締役社長



1978年京都府生まれ。学生時代は音楽活動に没頭、大学卒業後は音楽活動を経て、大手ジュエリーメーカー勤務。退社後、イタリア・フィレンツェに留学し、2008年に家業である西陣織の老舗「細尾」に入社し、現在は代表取締役社長、12代目当主を務める。創業350年以上続く伝統工芸を現代に再定義し、建築・インテリア業界との連携を推進。伝統と革新の橋渡し役として世界のラグジュアリーブランドやアートシーンで高い評価を得る。

瀬戸内デザイン会議メンバー

御立尚資 Takashi Mitachi

ボストン・コンサルティング・グループ 元日本代表
京都大学 経営管理大学院 客員教授
熟と爛 代表取締役会長



兵庫県西宮市生まれ。京都大学文学部米文学科卒業。ハーバード大学にて経営学修士（MBA with High Distinction, Baker Scholar）を取得。日本航空株式会社を経て、1993年にボストン・コンサルティング・グループ（BCG）に入社。2005年から2015年まで日本代表、2006年から2013年までBCGグローバル経営会議メンバーを務める。現在は、京都大学経営管理大学院で教鞭をとりながら、熟成日本酒に特化したスタートアップ「熟と爛」会長、複数の上場企業の社外取締役を務める。大原美術館理事、東京芸術大学経営評議員など、アートに関わる仕事も。

瀬戸内デザイン会議メンバー

橋本麻里 Mari Hashimoto

学芸プロデューサー



小田原文化財団 甘橘山美術館開館準備室長、金沢工業大学客員教授。刀剣文化研究保全機構 業務執行理事。国際基督教大学卒業。日本美術を主な領域とする執筆・編集、キュレーション、コンサルティング等に携わる。ゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」日本文化監修や「ラーメンどんぶり展」（2025年、21_21 DESIGN SIGHT）の展示ディレクション、JAL 日本美術カレンダー（2021～25年）の構成など、活動内容は多岐にわたる。近著に『かざる日本』（岩波書店）、共著に『図書館を建てる、図書館で暮らす』（新潮社）ほか編著書多数。国立美術館外部評価委員（文化庁）、文化審議会文化施設部会委員（文化庁）。

瀬戸内デザイン会議メンバー

福武英明 Hideaki Fukutake

ベネッセホールディングス 取締役会長
福武財団 理事長



ベネッセホールディングス取締役会長。また福武財団の理事長として、直島を中心に瀬戸内海の島々において現代アートや建築、デザインを通じたコミュニティづくりや文化活動を展開中。2009年ニュージーランドにてefu Investmentの設立後、投資事業、企業買収を実施。2020年Still Ltdを創業し、様々な事業やイニシアティブを通して、世代を超えて残る新しい文化を興す活動に取り組む。

山極壽一 Juichi Yamagiwa

霊長類学者
総合地球環境学研究所所長



1952年東京都生まれ。京都大学理学部卒、同大学大学院博士課程単位取得退学、理学博士。京都大学第26代総長、および、日本学術会議会長を歴任し、現在は総合地球環境学研究所所長を務める。ゴリラ研究の第一人者で人間社会や文化の起源を探索し進化論や社会論に関する多くの著作を発表。ゴリラ研究の世界的権威であるとともに、日本の学術界を牽引する存在でもある。近著に『ゴリラからの警告』、『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』、『老いの思考法』など。

山本奈未 *Nami Yamamoto*

山本山 代表取締役社長 十一代当主

東京都生まれ。The College of Idaho 卒業。1690 年創業の老舗企業「山本山」の11代目当主であり、株式会社山本山の代表取締役社長。アメリカ法人「Yamamotoyama U.S.A.」のCEOとして海外事業統括し、性別や人種にとられない多様な人材を活用。伝統と革新を融合させた経営を実践し、若手経営者として老舗の革新を担い、山本山の新たな時代を切り拓いている。アートとの連携も積極的。

瀬戸内デザイン会議世話人

石川康晴 *Yasuharu Ishikawa*

イシカワホールディングス 代表取締役社長
石川文化振興財団 理事長

1970年岡山県生まれ。岡山大学経済学部卒。京都大学大学院経営学修士(MBA)。23歳でアパレル製造・販売会社、クロスカンパニー(現・株式会社ストライプインターナショナル)を創業。2011年からコンセプチュアルアートを中心に現代アートのコレクションを開始し、2014年には公益財団法人石川文化振興財団を設立。2022年秋に開催された国際現代美術展「岡山芸術交流」では第1回、第2回に引き続き総合プロデューサーを務め、地元岡山の文化や経済振興にも取り組んでいる。

渡邊 敦 *Atsushi Watanabe*

笹川平和財団
海洋政策研究所 海洋政策実現部部長

2004年 東京大学大学院 理学系研究科地球惑星科学専攻修士(理学博士)。沖縄県石垣島やバラオのサンゴ礁等を対象にフィールド調査を行い、サンゴ礁の健康状態と炭素循環との関係を調査した。2004年～2008年まで名古屋大学大学院 環境学研究科で博士研究員。東シナ海から日本海、相模湾を対象に、海洋によるCO₂吸収の季節・空間変動を調べる。2008年～2018年、東京工業大学 大学院情報理工学研究科等で助教。沖縄県石垣島・西表島間の石西礁湖やバラオのサンゴ礁、フィリピンやインドネシアの沿岸生態系を対象に、気候変動や養殖業、陸域での人間活動が沿岸生態系に与える影響評価を行ってきた。2018年4月より現職。

瀬戸内デザイン会議世話人

神原勝成 *Katsushige Kambara*

ツネイシホールディングス 代表取締役社長

1968年広島県福山市生まれ。1991年常石造船株式会社 取締役。1998年常石造船株式会社 代表取締役社長就任。2007年ツネイシホールディングス株式会社 代表取締役社長を経て、2011年せとうちホールディングス株式会社設立。町おこしを中心とした事業展開をしつつ、祖父が開いた宗教法人神勝寺の伽藍の再整備、臨済宗中興の祖である白隠禅師の禅画のコレクションをはじめ、禅と庭のミュージアムなど建築分野まで色々と幅広く手がけすぎて蟄居をしていたが今年に入って蟄居は解除。神原・ツネイシ文化財団を設立。代表理事を務める。

瀬戸内デザイン会議世話人

原 研哉 *Kenya Hara*

デザイナー
日本デザインセンター 代表

1958年生まれ。グラフィックデザイナー。日本デザインセンター代表取締役社長。武蔵野美術大学教授。世界各地を巡回し、広く影響を与えた「RE-DESIGN : 日常の21世紀」展をはじめ、「JAPAN CAR」「HOUSE VISION」「Ex-formation」など既存の価値観を更新するキーワードを擁する展覧会や教育活動を展開。また、長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、愛知万博のプロモーションでは、深く日本文化に根ざしたデザインを実践した。2002年より無印良品のアートディレクター。活動領域は極めて広いが、透明度を志向する仕事で、松屋銀座、森ビル、蔦屋書店、GINZA SIX、MIKIMOTO、ヤマト運輸などのVIを手がける。外務省「JAPAN HOUSE」では総合プロデューサーを務める。2019年7月にウェブサイト「低空飛行」を立ち上げ、個人の視点から、高解像度な日本紹介を始め、観光分野に新たなアプローチを試みている。